

2024年「卒業生キャリアアンケート」調査実施報告書

2024年9月吉日

東邦音楽大学キャリア支援センター

実施概要

- ・目的: 本学の教育内容や学修環境改善等の参考とする。また、在学生の進路選択の一助とするとともに、卒業生の卒業後のキャリアサポートの充実を目途とする。
- ・実施方法: アンケート回答依頼を郵送のうえ、web (Google フォーム) 回答を依頼 (回答は web のみ)
- ・アンケート対象者: 卒業後3年目 (令和2年度/R2年(2021年)3月卒業) の77名
- ・実施期間: 2024年4月25日発送/回答締切: 2024年5月15日
- ・回収率: 22% (回答件数: 17件)

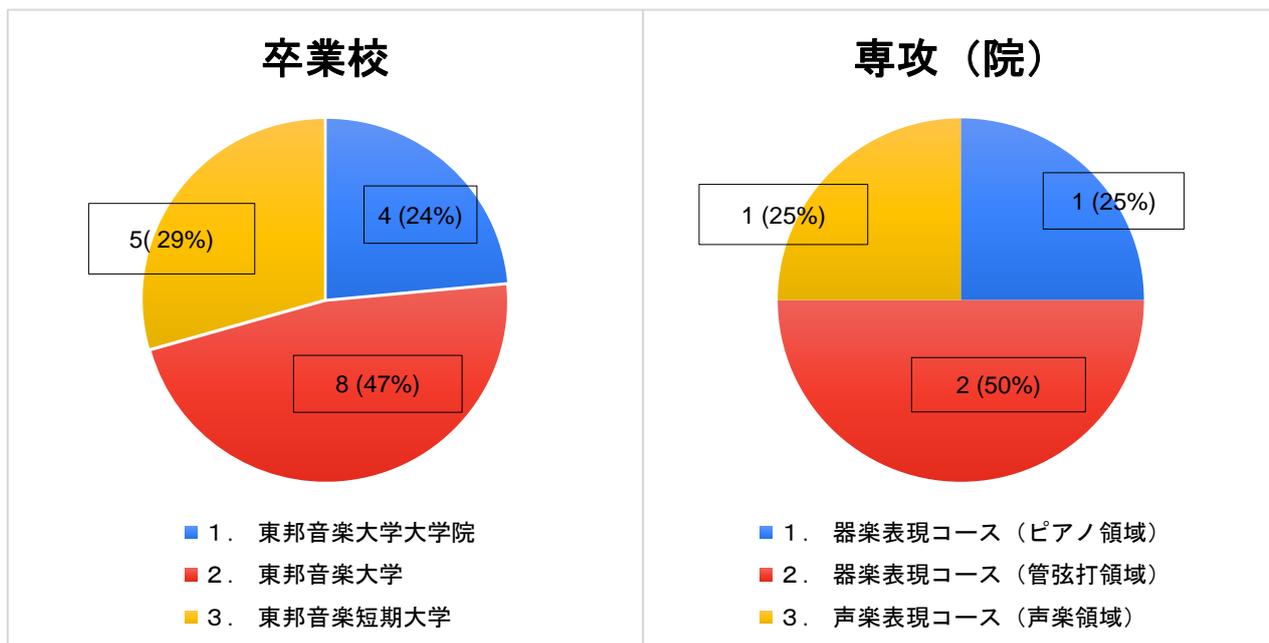
今回の回答数は17件(22%)で、一般的に20~30%に留まるとされる郵送調査の回収率¹⁾の範囲内である。回収率向上の方策として、本アンケートが教育の質向上に寄与する重要な位置づけであることを踏まえ、キャリア支援委員会をはじめ各種会議等において関係者への周知や該当卒業生への回答促進への協力を今後も依頼していき回収率増加に努める。引き続き経年比較等も含めさらなる分析を進め、継続調査を実施のうえデータを蓄積していくことが望ましい。

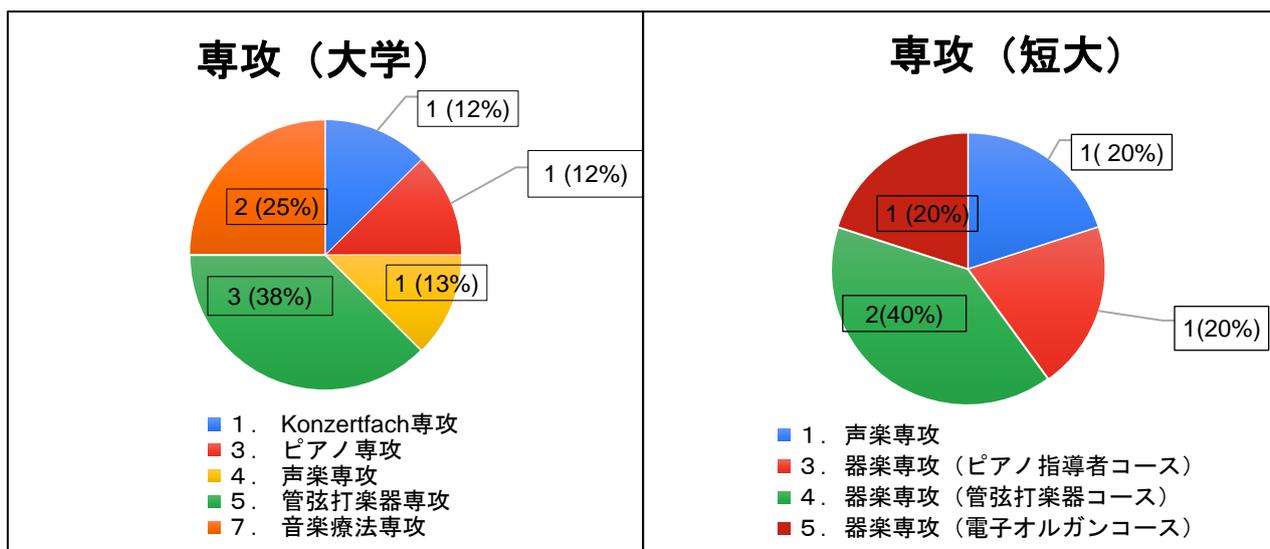
1) 大谷信介, 木下栄二, 後藤範章, 他: 社会調査へのアプローチ [第2版] 論理と方法, pp. 6-7, pp. 165-178 (2005) ミネルヴァ書房, 京都

1. 調査結果と考察

※各グラフ内における(%)の前に記載している数値は、回答人数の実数。

【Q1、Q2】卒業校及び専攻・コース

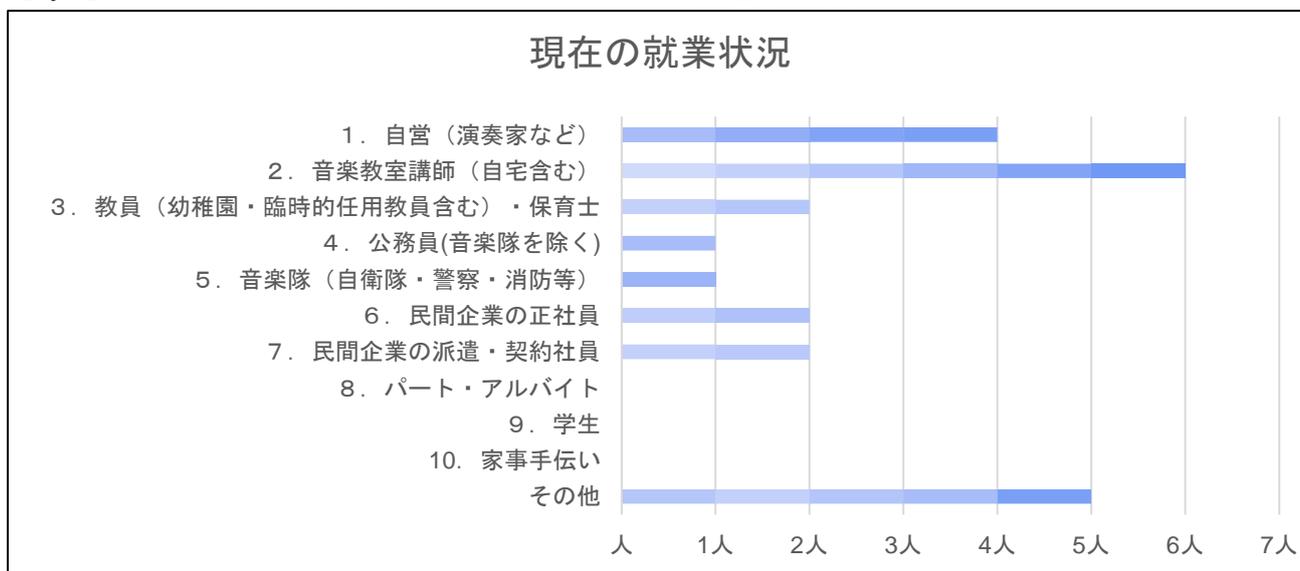




| 卒業校 | 回答数 | 専攻・コース |
|------|-----|------------------------------------|
| 大学院 | 4 | 声楽（1）、管弦打楽器（2）、ピアノ（1） |
| 大学 | 8 | Kf（1）、ピアノ（1）、声楽（1）、管弦打（3）、音楽療法（2）、 |
| 短期大学 | 5 | ピアノ指導者（1）、管弦打（2）、電子オルガン（1）、声楽（1） |

（ ）内は回答人数

【Q3】あなたの現在の就業状況についてお伺いします（複数回答）

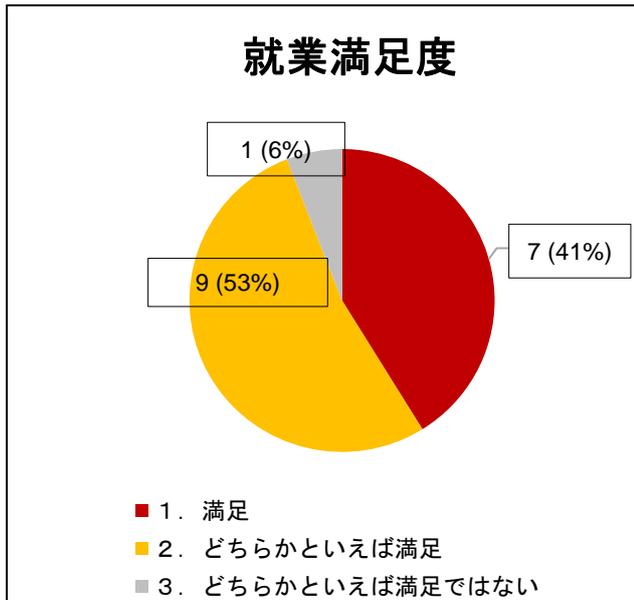


<自由記述：業界、会社名等>

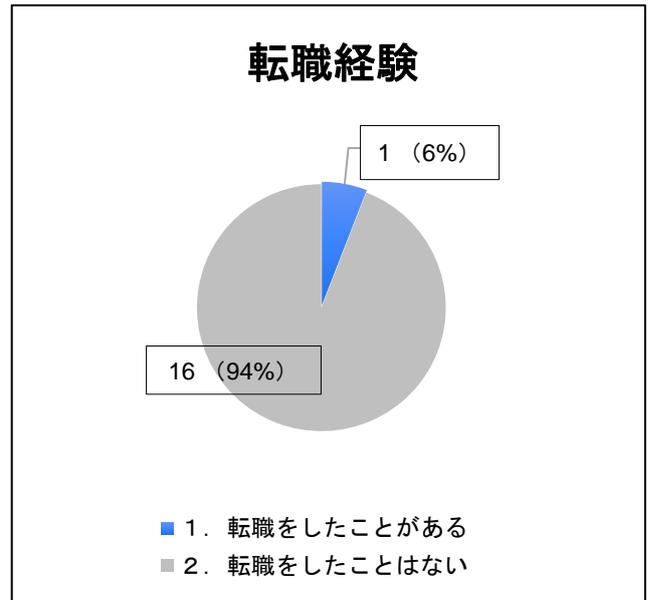
ヤマハシステム講師（2）、千葉県立つくし特別支援学校、淑徳大学、あい音楽教室（野田市）とキャリアパワーの派遣社員、株式会社ネクシス、よみうりカルチャー、社会福祉法人ハッピーネット、衆議院事務局、ヒロピアノ教室、音楽、こばんはうすさくら、カワイ音楽教室、ミュージカルピアニスト

2021年、2022年と同様に「音楽教室講師」が最も多かった（2023年は「民間企業の正社員」が突出していた）。就業状況と他項目との相関については、今後、過年度データを総合的に分析することで新たな知見が得られると推察する。

【Q4】現在の就業状況に満足していますか



【Q5】卒業（修了）直後からこれまでに、転職をしたことがありますか



現在の就業状況では「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせると94%であった（2020年82%、2021年100%、2022年91%、2023年80%）。過去5年においては、2023年の80%が一番低く、今回は2021年の100%に次いで満足度が高い結果となっている。また、転職経験があると回答したのは17名中1名のみであり、一般的に言われる3年以内に3割とされる転職率より低い。一方で、2020年27%、2021年30%、2022年36%、2023年48%と転職経験者が微増傾向の中での単年度の結果のため、経年推移を注視したい。

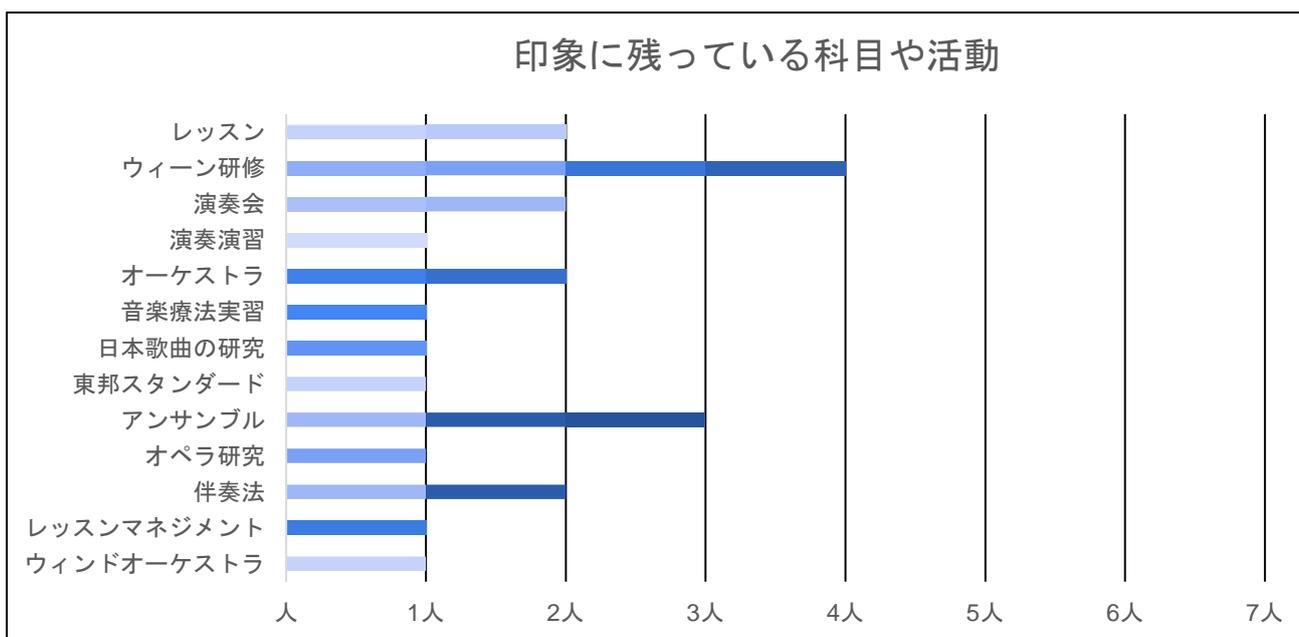
【Q8】 在学中に、このようなキャリア支援があればよかったなどありましたらご記入ください

| | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 外部の人の話し（短大）※ |
| 2 | 短期インターンや興味のある業界の先輩との OGOB 会（大学）※ |

注) 自由記述を抜粋のうえ転載。() 内は回答者学校種。※については既実施。

「1 外部の人の話し（短大卒業生）」については、キャリアデザイン授業において、外部講師が担当しておりそこでは講師自身の話しも踏まえて授業が構成されている。また、東邦スタンダードなどでは、定期的に卒業生の講話も実施している。「2 短期インターンや興味のある業界の先輩との OGOB 会（大学卒業生）」については、本学では、キャリア支援の4類型のうち「タイプ3」に該当する2週間の現場体験を課すインターンシップ課目を実施しており、「タイプ3」に該当しない短期間の内容については、外部で参加するインターンシップを推奨している。また、さまざまな業種の卒業生と少人数でのオンライン座談会も2022年度より実施している。

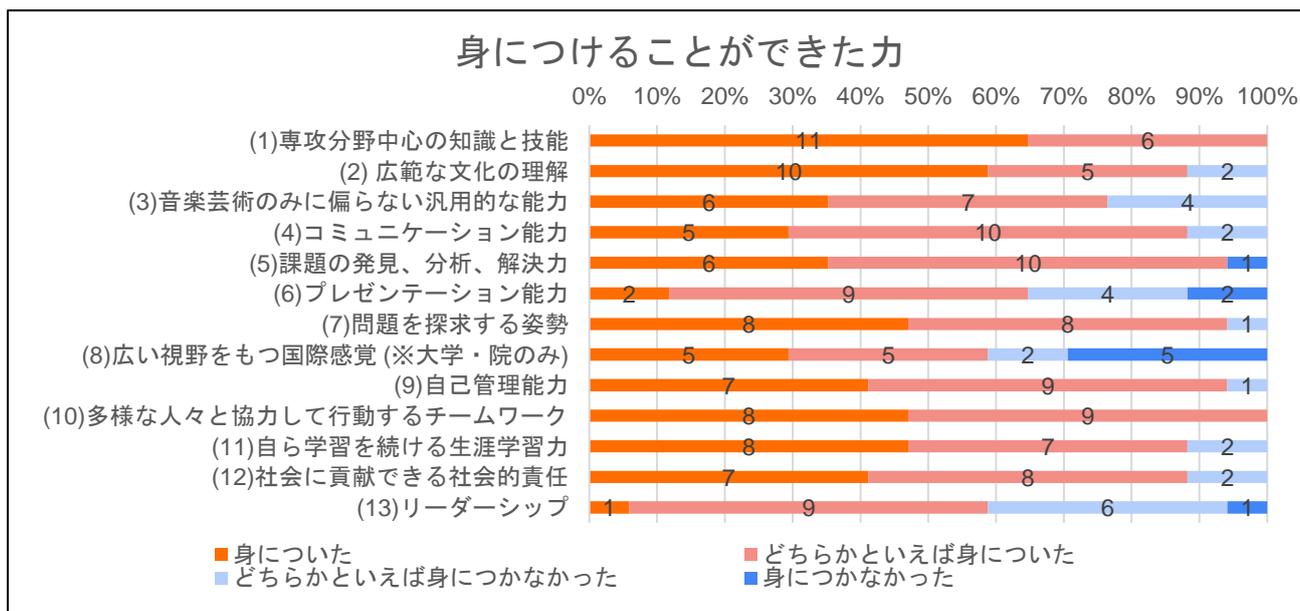
【Q9】 在学中に印象に残っている科目や活動（演奏活動含む）はどのようなことですか（複数回答）



注) 自由記述を分類分けしグラフ化

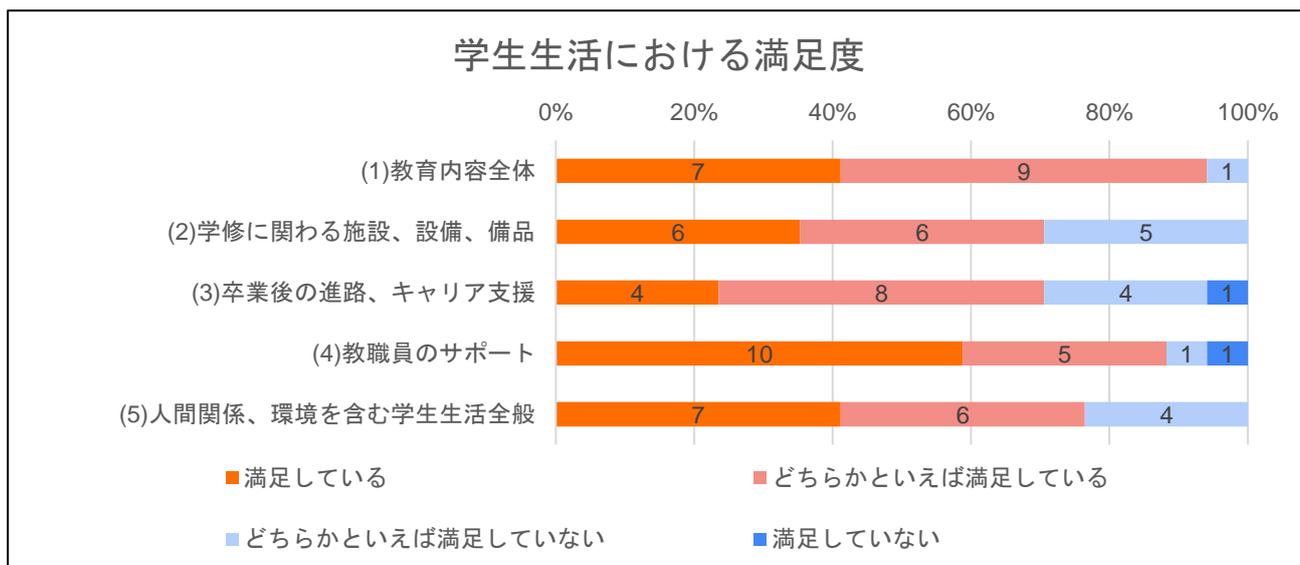
「ウィーン研修」が最も高い結果となり、次いで「アンサンブル」の授業であった。例年、音楽大学の特徴である音楽系科目が高い結果となっており、学生の満足度も高いことが伺える。ただし、実施年ごとに回答に挙げられる科目等が異なるため、単年での差異は見出しにくい。サンプル数を確保するために過年度データを総合的に分析することで、科目等における差異などが見いだせる可能性が推察される。

【Q10】 本学で身に付けることができた力について伺います



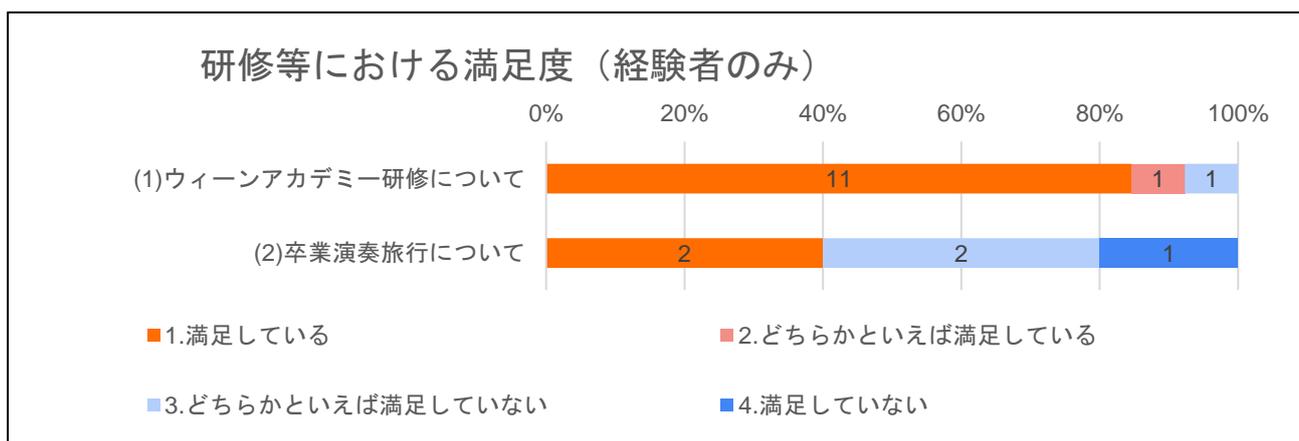
「身に付いた」が最も高かったのは「(1)専攻分野中心の知識と技能」であり、2022, 2023 年も同様であった。次いで、「(2) 広範な文化の理解」となっているが、これは印象に残っている課目 (Q9) で「ウィーン研修」が 1 位であったこととも関連している可能性が推察される。また、「身に付いた」、「どちらかといえば身に付いた」を合わせると 13 項目中 9 項目で 80% (2023 年は 7 項目) を超えており、引き続き、本学がディプロマポリシーで求めている能力について学生が達成できるよう、また大学として音楽大学の特性を活かした学びを提供できるようにカリキュラム等の検討が望まれる。

【Q11】 本学での学生生活における満足度について伺います



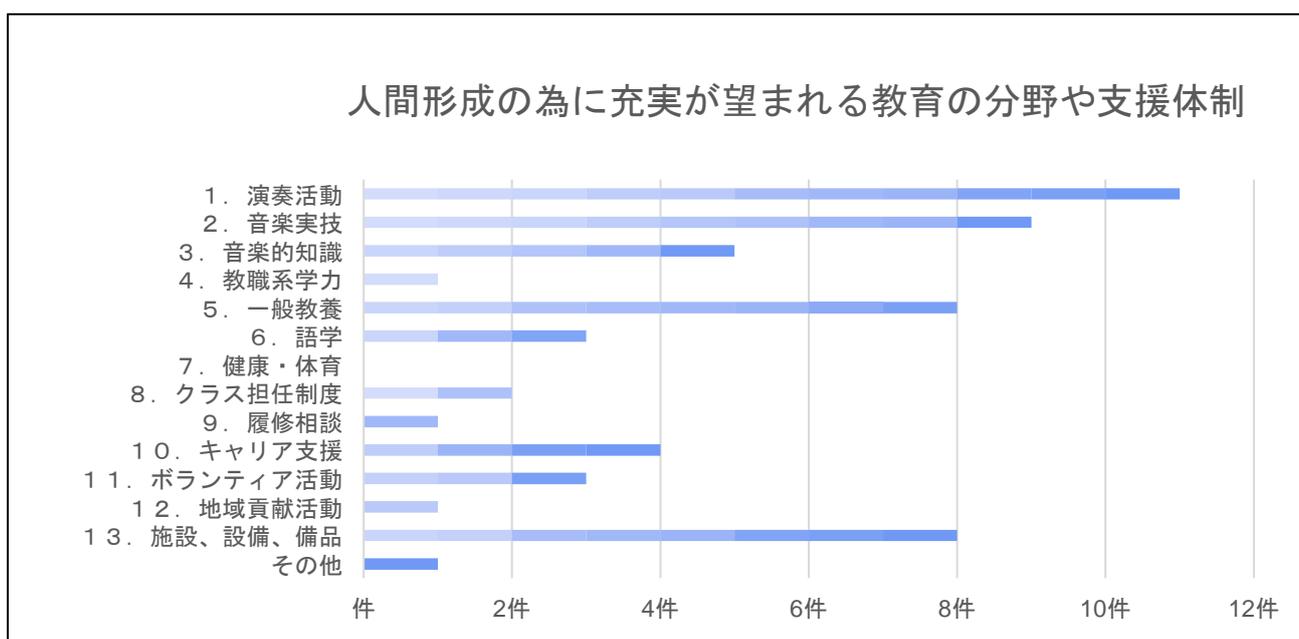
「満足している」が単独で最も高かったのは、昨年同様「(4)教職員のサポート」であった。「どちらかといえば満足している」を合わせると、「(1)教育内容全体」が最も高く、次いで「(4)教職員のサポート」であり、こちらも2023年と同様の結果であった。また、5項目中すべてにおいて、約70%が満足している（「どちらかといえば満足している」を合わせる）結果となり、昨年よりやや満足度が減少している状況であったため、経年に注視したい。

【Q12】 本学での以下の経験における満足度について伺います



当該研修等を経験した者のみの回答では、ウィーン研修では80%以上が満足している結果であった（2020～2023年において同数値）。ただし、卒業演奏旅行では、経験者5名のうち3名が満足していない（どちらかといえば満足していないと合算）結果であった。コロナ禍において授業実施形態の変化なども影響していると推察されるが、母数が少数であることもあり、経年に注視したい。

【Q13】 本学での学生生活を振り返って、人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制について伺います（複数回答）



「(1)演奏活動」が最も高く、これは例年と同傾向である。次いで「(2)音楽実技」、次に「(5)一般教養」「(13) 施設・設備・備品」が同数の結果であった。また、昨年「(6)語学」が例年より上位に入っていたが、今年度は例年と同傾向であった。

2. まとめ

本調査から、得られた示唆は以下のとおりである。

- (1) 現在の就業状況(Q4)では、94%が満足しており（「満足」、「やや満足」を合算）、昨年（2023年）の80%を上回り、2022年の91%と同傾向となった。転職経験者（Q5）は17名中1名で6%であり、一般的な離職率の3割を大きく下回る結果となった。ただし、2020年27%、2021年30%、2022年36%、2023年48%と転職経験者が微増傾向の中での単年度の結果のため、経年推移を注視する必要がある。
- (2) 本学で身に付けることができた力(Q10)では、「身についた」が最も高かったのは「(1)専攻分野中心の知識と技能」であり、2022、2023年も同様であった。また、「身についた」、「どちらかといえば身についた」を合わせると13項目中9項目で80%（2023年は7項目）を超える結果であった。ディプロマポリシーに掲げているように、音楽の専門技能を身に付けるだけでなく、音楽での学びを通じて学生が課題解決力や表現力を身に付けられるように、音楽大学の特性を活かしたカリキュラムを充実させることが望まれる。
- (3) 学生生活における満足度では（Q11）、5項目中すべてにおいて、約70%が満足している（「どちらかといえば満足している」を合わせる）結果であった。2021～2023年では、5項目中3項目（「教育内容全体」、「教職員のサポート」、「学修に関わる施設、設備、備品」）で、約90%が満足している（「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合算）結果であったが、今年度は2項目で約80%（「教育内容全体」、「教職員のサポート」）の満足度であったため、経年に注視することが望ましい。
- (4) ウィーン研修・演奏演習（Q12）については、ウィーン研修では、満足している割合が80%を超える結果であったが、演奏演習では、例年より満足度が低い結果であった（経験者のみ）。コロナ禍での授業実施形態の変化や母数が少ないことも鑑み、経年推移に注視する必要がある。
- (5) 人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制（Q13）では、例年と同様に「(1)演奏活動」が最も高い結果であった。次いで「(2)音楽実技」、次に「(5)一般教養」「(13) 施設・設備・備品」が同数の結果であった。過年度においても「演奏活動」、「音楽実技」は上位項目であり、本学が音楽大学であるという特性を鑑みても音楽分野の教育・支援体制について、一層の充実が望まれることが示された。

以上